

## わたしの 視点から



特定非営利活動法人  
にじいろクレヨン理事長

柴田 滋紀

政府が全ての小中学校で児童・生徒1人1台のパソコンを整備する方針というニュースを目にしました。国際競争社会を乗り切るため、デジタルツールを使いこなせる人材育成に力を入れようとしていることや、地域間の教育格差軽減などの狙いがあるのは分かりますが、ますます自然と人間の暮らしの乖離が進むことに懸念を抱いています。

利便性を追求することで自然に対する畏敬の念が失われ、東日本大震災のような大災害の発生時、人間は自然の脅威の前に手も足も出ない。そうならないため、子どもたちが小さいうちから自然と共に生きるすべを身に付けることが必要ではないでしょうか。

にじいろクレヨン（石巻市）は震災以降、主に石巻市で子どもの居場所・遊び場づくりに継続して取り組んできました。2011年



子どもの居場所づくり活動で、雲の手前に見える虹(上)に向かってポーズを取る子どもたちとスタッフ=石巻市のぞみ野

# 子どもに居場所 地域豊かに

3月の震災直後は避難所で、15年までは仮設住宅で、訪問型の居場所・遊び場活動を。15年から現在までは防災集団移転地で、地域住民と共に子どもを見守る「コミュニティ」づくりと、子どもの状況に応じた活動を展開しています。

この8年、数々のドラマがありました。震災直後の避難所や仮設住宅では、パンチやキックなど子どもの暴力行為は日常茶飯事。住民の方々が大事に育てていた花を折る、集会所の備品を壊すといった事件もしょっちゅう。その都度、周囲の大人から「しつけがなっていない」とおしかりを受けながら、不安な暮らしの中で心がすさんだ子どもたちはずっと寄り添ってきました。

大切にしてきたことが二つあります。一つは、子どもが安心・安全にのびのびと自分を解放して遊べる環境をつくること。二つ目は活動に参加する子どもも大人も自分らしく表現できる環境をつくることです。

振り返れば、子どもの居場所を通じ、地域で暮らすみんなの豊かな居場所をつくってきたのだなあと感じます。利便性や効率化が優先され、子どもの遊びもデジタル仕様になっていく時代に、人らしく自然と共に生きる時間をどう取り戻すか。震災を体験した石巻だからこそ、これからのにじいろクレヨンは、豊かなまちづくりを目指し、挑戦を重ねていきます。